滋賀医科大学同窓会「湖医会」

KOKO ISSHI

54

2007.7.1

退官教授「在任中の思い出」・・ 2
抱負を語る ・・・・・・・・・・ 3
留学私話 ・・・・・・・・・ 4～5
医６期生卒後 20 年同期会・・・ 6
医 16 期生卒後 10 年同期会 ・・ 7
看５期生卒後５年同期会 ・・・ 8
看護学科交流懇談会 ・・・・・ 9
LITTLE WINDOW ・・・・・ 10

「湖医会」病院情報サービス開始

「湖医会」では、会員が勤務する病院（もちろん開業医も OK！）からの情報を会員に配信するサービスを有料で開始しました。医師・看護師の募集や緊急のメール配信（代診の急募など）にも対応可能です。詳細は事務局にお尋ねください。

■ 快挙！国家試験、パーフェクト合格（現役生）達成！

2007 年3月 27 日～29 日医師、看護師・助産師・保健師の国家試験の発表がありました。今年は、医学科・看護学科とも現役学生は全員合格という快挙を成し遂げました。看護学科が設立されてからの「合格率 100%」は初めてのことです。（関連記事３頁）

■「湖医会」が医師賠償責任保険の窓口に・・・

卒後研修医制度が変わり、卒後研修時の医師賠償責任保険をどこで加入すればいいのかな・・？と悩んだことはありませんか?滋賀医大で研修される方には、毎年大学側が案内し、加入していただいていた「東京海上日動火災」の医師賠償責任保険を来年度からは「湖医会」が窓口になり、滋賀医大外で研修される方にもご加入いただけるようにしようと手続きを進めております。

■ 役員改選

今年は、２年に一度の役員改選の年になっております。学年幹事はもとより会長職も然りです。現渡辺会長も５期１０年と、在任期間も過去会長の中で最長となりました。そろそろどなたかにバトンタッチしたいという渡辺会長の意向もあり、自薦・他薦を問わず我こそはと思われる方は、おられませんでしょうか?「湖医会」事務局までご一報ください！

■ 黒川 清 氏 （医6期生） 環太平洋大学教授に!!

2007年4月1日付けで、黒川氏が体育学部体育学科教授に就任されました。

発行 /「湖医会」 〒520-2192 大津市瀬田月輪町 TEL：077-548-2074 FAX 077-548-2094 koikai@koikai.org
Since 1987 / Editor Takehiro Inui / Co-editor Takashi Kadowaki / 印刷 昌栄印刷 / 2007.7.1

会員の
みなさんへ

在任中の思いで

湖医会会員諸氏に期待します

昴会湖東記念病院顧問
滋賀県医務薬務課医師確保支援センター顧問
松田 昌之

私が静岡労災病院（現浜松労災病院）に勤務していた時、前任で初代の教授半田譲二先生からお声がかかり、滋賀医科大学に着任したのは 1980 年 1 月でした。前年の 1979 年 4 月に滋賀県で最初の脳神経外科施設として大津市民病院と同時に開設され、滋賀県の脳神経外科診療の充実が期待されていました。着任した当時は C 病棟が完成したところで、6 A にあった脳神経外科病棟は看護師の皆さんの顔や名前を覚える間もなくすぐに 3C 病棟に引っ越しとなり、半年後にはまた現在の３B 病棟へ引っ越し、とあわただしかったことを思い出します。当初の計画では脳神経外科はなぜか婦人科とともに 6A 収まることになっていたようですが、救急患者の搬入や緊急手術で忙しい脳外科は嫌われ、分娩部になっていた 3B と入れ替わることになった、と聞きました。お陰で私たちにとっては手術室の真ん前で誠に都合のよい病棟でした。病院再開発により今また新しい D 病棟が建築中ですが、8月に完成、9月末にはその５階に眼科とともに入ることになっています。最近は以前のように嫌われるほど忙しくはありません。というのは、滋賀県内に脳神経外科施設が増えたことと、当科出身の先生方が県内の各病院で活躍してくれているからです。長浜赤十字、公立甲賀、公立高島、大津赤十字、近江八幡市立総合医療センター、草津総合、日野記念、湖東記念には部長ほか１～２名が、済生会には医員が、その他シミズ、蘇生会、大島（京都市）、第二岡本（宇治市）、田辺中央（京田辺市）にも部長、副院長として勤務しており、地域医療に大きく貢献していることを誇りに思っています。新研修医制度発足後の地域医療の崩壊は私たち医師だけで解決できることは限られ、国の医療政策が変わらなければどうにもならないこともありますが、少なくとも地元滋賀県では滋賀医大の存在感を示す好機ととらえ、湖医会会員の皆様のますますのご活躍を期待しています。

好奇心のまにまに

生命科学講座(数学)
寺田 俊明

老兵は 語るべからず　情念を 胸にぞ秘めて 静かに消えむ

辞世の句で全て終わり。後は長～い蛇足です。

創立以来数学担当教員の仮面を被ってしぶとく生き残ってきましたが、素顔の私は教育者としての自覚を持ったことがありません。私にとって学生諸君は、一緒に駄弁ったり飲んだりのときは友達。どこかでたまたま出逢っただけなら、知人や赤の他人。平穏無事な授業中は、芸のない道化役者が恥ずかしげもなく連発する寒いギャグを、凍りついた笑いを浮かべて聞いて下さっている我慢強いお客様。騒々しい授業中は、真夜中に大声で徘徊し、「うるさい！」と怒鳴られている若年認知症患者。チクリ表（学生による授業評価ともいう、予習せぬため理解できぬことの責任を「難しすぎる」講義に転嫁して、学生たちが心置きなくサボれるようにとの有難い配慮で生まれた。その役割を見事に果たしている。）に、江戸の敵を長崎でとばかりに、大喜びで辛辣な本音を書かれたときは、不倶戴天の敵、でした。誰かを弟子として仕込もうとか、立派な師匠になろうなどという大それたことは、夢に見たこともありません。

物心ついて以来、頭の中に「好奇心」という怪物が住み着いており、私はその意のままに操られています。

それが命じることには、囲碁・旅行などもありますが、大部分は「数学」と称する知の女神を追っかけ軟派せよ！です。未だ大した成果はありませんが、講義や論文作成などにはあまり興味がなく、魅力のない授業ばかりしている私は、教育者としても失格だったでしょうが、それでも暴動を起こすことなくじっと耐えて下さった湖医会の皆様には心より感謝するとともにお詫びを申し上げます。反省！

しかし、一方では、好奇心の命じるままに生きている者が少しぐらい居ても良いのではないか、と都合が良い理屈を捏ね上げて、この３２年間を何とか快適に暮らしてきました。どうも申し訳ありません。

これからどう生きていく？ --- 好奇心に定年などありません。今後はその指図通り素顔で堂々と歩みます。必要なら地獄に堕ちることも辞さずに。どなたか同行願えると嬉しいのですが・・・だめでしょうね～

抱負を語る

そのまんま滋賀医大

滋賀医科大学精神医学講座　教授
山田　尚登　（医2期生）

2007 年 3 月 1 日付けで、滋賀医大精神医学講座の教授に就任いたしました 2 期生の山田です。1976 年に滋賀医大に入学し、卒業後そのまんま滋賀医大精神医学講座の研修医となり、大学院生、助手、講師、助教授としての 27 年間の生活の内、公立高島病院に精神科医長として赴任していた 1 年半とカナダのアルバータ大学に留学していた 2 年を除く 23 年余りを滋賀医大で過ごしました。こう書いてみると自らの人生の半分近くの期間を滋賀医大に通学あるいは通勤していたことになり、改めて感慨深いものがあります。

2003 年に滋賀医科大学を辞職してからは、愛知県にある北津島病院という精神科の病院の副院長、その後院長として働いておりました。

ご存知のように、国立大学の独立法人化、新しい臨床研修医制度など大学を取り巻く環境は近年著しく変化しています。同様に、精神科医療を取り巻く環境も著しく変化しています。この 10 年間に精神科への通院患者数は倍以上となり、精神科医は多くの県の殆どの病院で不足している状態です。この様な状況下、滋賀医大精神医学講座を今後更に発展させたいとの思いで、再び母校に帰る決心を致しました。地域に頼られる精神科医療、他科に頼られる精神科医療、学生や臨床研修医に魅力のある精神科医療を今後の目標として滋賀医大精神医学講座を運営していきたいと考えています。何卒、よろしくお願いいたします。

最後に、最近は、「そのまんま・・・」というのが流行で、某お笑いタレントも宮崎県知事にもなってしまいました。滋賀医大の多くの卒業生も私のように「そのまんま滋賀医大」となって滋賀医大に入局し、共に母校である滋賀医大のために働いてくれることを期待しています。

国家試験合格率の推移（%）

医師

S56春	S56秋	S57春	S57秋	S58春	S58秋	S59春	S59秋
79.0	76.5	83.9	94.4	91.9	62.5	92.2	62.5

S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4
92.5	90.5	89.1	86	90.9	92	90.5	91.4

H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
95.5	92.2	93.7	94.3	97.7	98.9	84.3	90.1

H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
92	97.9	96.8	96.4	96.2	93.6	100

保健師

H10	H11	H12	H13	H14
93.8	94.4	90.6	96.9	91.2

H15	H16	H17	H18	H19
100	95.8	93.9	92.6	100

看護師

H10	H11	H12	H13	H14
92.7	100	100	98.1	98.3

H15	H16	H17	H18	H19
100	100	100	93.2	100

助産師

H19
100

＊助産師は今年から開始されました

メルボルン留学記

Nursing Class メイトと先生

滋賀医科大学病院　西村　悠里　（看9期生）

１０ヶ月間メルボルンでの語学・看護留学を終え、‘私の留学’について振り返ろうと思います。

❀ ❀ ❀

私はまずMelbourne Language Centreで約３ヶ月語学の勉強をしながら、週１回看護のクラスに入り、オーストラリアの病院見学やシステム・体制についての講義を受けました。語学の勉強は日本で中高と大学で少しは英語の勉強をしてきたものの、やはり喋るとなると別物。日本人は特に、speakingが苦手と聞いていましたが、その通り。つい文法や 自分の間違いばかり考えてしまって、はじめは中々質問・発言もできませんでした。けれども、オーストラリアでの授業は受身では何も学べません。自分から発言すること。これが最も重要視されていることを深く痛感しました。また、「当たり前のこと」そう思っていることに対して「Why？」とよく聞かれます。何に対しても、Yes・Noで答える

Saly 先生と筆者

のではいけません。それに対する自分の意見や主張を述べれば、会話が成り立ちません。答えのない質問に対して、自分はどう思っているのか、なぜそう思うのかをよく考えるようになりました。また、学校では、日本人が多い中、友達作りは自分次第です。日本人同士でも「週末以外は日本語を使わない！」と決めて英語をなるべく使うようにしたり、日本人以外の友達とも深く付き合うようにしたり。同じように英語を学びに来てる人ばかりなので、初めは辞書片手に会話・・・でしたが、それでも笑えるところは同じです。韓国人やインドネシア・中国・ベトナム・インドといったアジアの友達や、イラン・サウジアラビアといった中東の方々、ブルガリアやギリシャ・フランス・イタリアといったヨーロッパの人達とも友達になることが出来、色々な国の文化に触れることが出来ました。

❀ ❀ ❀

看護プログラムでは、病院システムの違いをオーストラリアで働いている現地の看護師さんから講義をしていただいたり、実際訪問をして、いろいろな施設を見学しました。その中では、看護師という職が確立されていて、勤務時間やシフト体制の違い、患者対看護師の割合、Bank や Hospital in the Home(HITH) といった日本ではまだ珍しい制度など、驚かされることがたくさんありました。また、医学英語を学ぶ時間もあり、その後に控えている病院実習に備えて基本となる医学英語をロールプレイやゲーム・ビデオを見たりして学習しました。その際、看護師の方の実際の経験も聞くことが出来、改めて日本との違いを感じました。

❀ ❀ ❀

人によって実習させていただく病院はそれぞれなのですが、私は St Vincent's Hospital の HITH という急性期の訪問看護と、St. Vincent's Health Coronary Care Unit に行かせてもらいました。HITH というのはまだ日本では珍しい、オーストラリア独特の急性期を対象とした訪問看護で、病院の患者さんであるにも関わらず、自宅や病院以外で看護・医療を受けられるといった新しいシステムです。患者さんは入院扱いであり、病院の看護師が訪問するといったもので、病院の稼働率・回転率 をあげるだけでなく、家族とすごしたい、家にいたいといった患者さんにとっても大変すばらしい、興味深いシステムでした。けれども、日本とは少し問題とされている点も異なり、ドラッグやアルコールの問題が絡み合い、「看護師の安全」のため ２ 人で訪問させていただく地域もありました。

OET クラスのメンバーと

2 箇所目は、Coronary Care Unit で勉強させていただきました。St.Vincent's Hospital は新しく建て替えられた病院なので、病院の作りも少し異なっています。ナースステーションといったものがありません。そのかわり、小さいステーションが 2・3 部屋ごと、部屋の前にあり、その部屋を担当している看護師が、そこで記録を書いたり、その他さまざまな仕事を行います。もちろん、看護師全体のミーティングも行いますし、薬など大切なものが保管してある部屋は医療者しか持っていないカードを通さないと入れないといったように、セキュリティーもしっかりしていました (その辺りは日本と同じだと思いますが)。

また 1 人の看護師が担当する患者さんは一般病棟で 4 人。日本の 1：7 という制度から比べると大きな差があります。そのため、日本よりゆったりとした時間の流れの中、患者さん一人一人をじっくり看護するといった感じを受けました。

その病院は、最も設備が整った病院の一つだと思います。日本とは異なった看護システムや考え方に非常に驚きをもち、興味を抱きました。私はまだ看護師として働き始めたばかりで、看護学生の時に見ていた「病院」と、実際に働いてみて感じる「病院」とは違うのかもしれませんが、メルボルンで経験し学んできたこと を様々な方面で活かしていきたいと思っています。

看護プログラムに参加したのは私を含めて１６人ほど。私以外は３・５・１０年以上と経験がある看護師さんばかりでした。初めは、「私がここにいて学べることはあるのだろうか?」と不安に思いましたが、看護の世界において、大先輩である方々と友達として一緒に勉強していくうちに、その友達からたくさんのことを 学ぶことができました。１年目の話、つらかったこと・うれしかったこと。そして2・3年目になってからのこと。それから先のこと。また色んな科の特徴や状況についても聞くことが出来、不安ももちろんありますが、それ以上にオーストラリアで出会った看護師の方々のようになりたい!と強く思えるようになりました。

語学のクラスの後、４ヶ月ほど、OET対策コースに入りました。OETというのはオーストラリアで看護師・医師など医療従事者として働きたい人達が受けるテストです。そこでは世界から集まってきた医師・看護師・理学療法士・歯科医など専門職の人達と共にレベルの高い授業を受けることが出来ました。そのテスト は writing・speaking・reading・listening と4つのパートから医学に関した記事からの問題やリスニング・患者とのロールプレイなど実際に働く場を想定したテストです。そのため、初めは知らない単語ばかりで文章ひとつ読むのに何時間もかかりました。listening も早くて何を言っているのかわからず、聞こえても書く時間さえ与えられず、ドンドンと問題は過ぎていってしまいます。何もかも、私にとっては難易度の高い授業・テストでしたが、すこしずつ自分に出来ることをしていこう!と思い、単語帳を作って皆で放課後テストをしたり、友達やシェアハウスのオーナーと speaking の練習をしたり、先生からCDを借りて listening の練習をしたり。留学当初は、オーストラリアで働こうとも思わなかったし、まさか自分がOETの対策コースに入るとも思わなかったけれど、実際に友達と放課後まで英語漬けになって勉強したことは、私の留学生活における要になったと思います。

OET でお世話になった Michel 先生

卒後20年同期会 医学科 6期生

『医大（偉大）な6期生』

6学年担任　名誉教授
友吉唯夫

いがく
医学の道を歩みきて
だい
大なる夢を追い求め
いまや
いまや円熟指導層
なかなか
なかなかきびしい医療界
ロジック
ロジック無視の政策に
つかれ
疲れもしよう　わが友よ
きりょく
気力・体力保ちつつ
せいかつ
生活豊か　しあわせに
いがく
医学・医療の光たれ

卒後２０年同期会に参加して

阿部内科　院長　**阿部奈々美**

皆様！お久しぶりでした。

記憶の中のそのままの方、とても変わられた方（でも笑顔の中のやんちゃでやさしい眼は昔と同じでしたよ・・）、皆懐かしく、元気でお会いできたことを本当に嬉しく思いました。また、お忙しい中を御出席いただいた諸先生方にはありがとうございました。予想よりたくさんの出席があり、しかも遠方から来ていただけました。お話こそ全部の方とできませんでしたが、めったにお会いできない皆様の元気な姿を拝見できただけで私も出席できてよかったと思いました。

入学当時の顔写真が大きく映されている横で、現況をとうとうと述べられておられる姿は、年月を重ねた自信が感じられました。

厳しい医療情勢の中、ひとときの安らぎを得て、再び頑張ろうと思います。

最後に役員の方々、楽しい会をありがとうございました。

やっぱりみんな あの頃のままでした

沖縄県立南部医療センター／こども医療センター
心臓血管外科部長　**久貝忠男**

1986年卒業の卒後２０年の同期会が琵琶湖ホテル（大津）で開かれました。見かけはみんな昔のままだったり、そうでなかったりしましたが、話がはずむとやっぱりあの頃のままでした。本当に。出席者は総勢５３人、北は青森から南は沖縄まで、懐かしい顔が揃いました。学級担任であられた放射線基礎医学の青山喬先生、生物学の土井田幸郎先生、泌尿器科の友吉唯夫先生の御臨席も賜り、いっそう楽しいものになりました。一方で２０年の月日はやはり長いもので、亡くなられた同級生や恩師の方々が紹介され、全員で黙祷し、謹んでご冥福をお祈りしました。ハイライトは大学入学時の写真をバックにして青春の日々をたぐり寄せながらの各人の近況報告でした。なかには“人生の貫禄がつきすぎて”とても同一人物とは思えない方がいたり、波乱万丈を地で行く方もいたり、その苦労は本人だけが知る大変さでしたが、どこか心暖まるものが感じられました。全ての人と話す時間はありませんでしたが、私個人としては懐旧と感動の連続で、紙面にあの場を再現できないのがとても残念です。今回の２０年節目の同期会は時間と立場を超え、みんな一緒に過ごせたすばらしい一日でした。沖縄は南端の地ではありますが、滋賀医大出身者が少しずつ増えており、できることなら「沖縄湖医会」なるものを立ち上げ、母校を常に身近に感じたいと思っています。最後に幹事の黒川と九嶋の両君、本当にご苦労さんでした。

卒後10年同期会 医学科16期生

希　望

平安学院大学人間社会学部
福祉臨床学科　教授
野﨑光洋

2007 年 2 月 10 日、16 期生の卒後 10 年同期会に招待され、楽しいひと時を過ごした。16 期生の2人が生化学の助手として残っており、また、テニス部の OB も多く、私にとっては大変居心地の良いパーティーであった。卒後 10 年といえば、医師として、また、家庭的にも最も充実した時期ではないだろうか。そのためか、留学中の人あるいは仕事が忙しくて参加できなかった人も多く、参加者は 37 名であったが、参加者一人ひとりの顔が希望と自信に満ち溢れており、生活の充実振りが窺われた。席上、出席者の学生時代の写真が映し出され、同時に近況が報告された。また、欠席者からも多くのメッセージが寄せられ、それぞれの分野での活躍ぶりが紹介された。私の写真も卒業アルバムのものが映し出されそこに「希望」と言う文字が書かれていた。16 期生の卒業は阪神淡路大震災の年で、まだその爪痕がひどい時であった。テレビのインタビューに答えた被災者の言葉に「どんな辛い状況でも希望さえあれば耐えられる。」というのがあり、生きていく上で「希望」を持つことの大切さを感じた。そこで、「希望」にあふれた卒業生に対しての餞（はなむけ）の言葉として、自分だけでなく他人にも「希望」を与えるような医師になってほしいという願いを込めて送ったのを思い出した。その期待通り、それぞれの部署で活躍しておられる様子を目の当たりにし、大変嬉しく、また、頼もしく感じた。10 年後の再会を約束して別れたが、私もそれを一つの目標として頑張りたいと思っている。

卒後10年同期会を終えて

京都第二赤十字病院消化器科
河端秀明

2007 年 2 月 10 日、同級生の顔を思い浮かべながら京阪電車に揺られて浜大津駅に降り立つと、駅周辺は商業施設と高級ホテルが立ち並ぶ別世界に変貌を遂げていました。この景色のようにみんなも変わってしまっているのではないか、などと若干混乱しつつ会場の琵琶湖ホテルに向かうことになったわけですが、会場に入ったとたんそれが杞憂であったことを実感しました。そこには 10 年前と変わらない仲間たちの姿があり、気持ちは 10 年前にタイムスリップしていました。生化学を教えていただいた野崎光洋名誉教授もご出席くださり、大学入学時の写真を眺めながら思い出話や近況報告に花が咲き、あっという間に一次会、二次会と時間が過ぎてゆきました。10 年って長いようで短く、でもその間に臨床、研究、海外留学、結婚、育児など一人一人違った貴重な経験を積み重ね、みんな大人になり人としての厚みを増したように思いました。見た目にも厚みを増した人もおられましたが・・・。短い時間ではありましたが、思い出話に涙が出るほど笑い、みんなのがんばっている姿を目の当たりにして、日ごろの疲れも癒され、10 年分のエネルギーをもらったような気がします。また 10 年後、卒後 20 年同期会までがんばれそうです。

最後になりましたが、このようなすばらしい会を企画、進行してくださった田中先生、黄瀬先生、湖医会事務局の皆様に心より御礼申し上げます。

早くも10年後が楽しみです

岡村記念病院循環器科
樽谷康弘

卒後 10 年目の同期会。2007 年 2 月 10 日、私たち 16 期生が入学したときにはまだ移転されていなかった琵琶湖ホテルで開かれました。意外なことに皆、見かけはほとんど変わっておらず、卒後一度も会わなかった友人の名前も口をついて出てくることに自分でも驚きました。

始まる前からすでに場は温まっていましたが、幹事をしてくれた田中くんの「B 組、出席番号〇番、田中裕之です」の挨拶で一気に場は盛り上がました。当時、生化学を担当して下さった野崎光洋先生からは私たちが知らない開学当時の話を聞かせていただきました。30 年を経て当時ご尽力いただいた先生方の約半数が残念ながら他界されてしまったそうですが、野崎先生の変わらぬ若さには驚くばかりで、「貯金ならぬ『貯筋』。筋肉は使うほど貯まる。若いウチから体を鍛えなさい」との言葉には皆、納得しきりでした。

恒例となっている受験票の写真をバックにした近況報告や留学中で出席できなかった友人たちから届いたメールも紹介され、入学当時を思い出しつつ、この 10 年、いや 16 年間という時間が流れたことを改めて実感しました。

おいしいお酒を飲みながら（料理は例年にない早さでなくなったそうです）あっという間に楽しい時間が過ぎてしまいましたが、日本にとどまらず世界で活躍する同期生の頼もしい姿を垣間見、よい刺激を受けた一日でした。

今回、偶然にも階下で卒後 20 年目を迎える 6 期生の同期会が行われており 10 年後の自分たちの姿と重なりました。私自身、転居したばかりで直前になってようやく案内状が手元に届いたこともあり、異動の多い仕事柄、連絡先の変更はキチンとしないと 20 年目の同期会を逃しかねないと反省しました。皆さん、10 年後もまた会えますよう連絡先の変更はお忘れなく！

同期会 卒後5年 看護学科5期生

学級委員、いや幹事として

彦根市立病院　　山下　敬

『同期会の幹事、山下君でいいよね！』去年の秋かかってきた一本の電話。思えば昔からそうだった。大学時代、クラスでただ一人の男子学生だった私は、何かあればまとめ役を引き受けていました。まさに学級委員。頼られているのか便利なのか？それはともかく懐かしいあの感覚。同級生への案内メールを作りながら、もう卒業してから5年もたったか…、と感じました。毎年、瀬田のとある居酒屋さんで小規模では集まったりしていましたが、今回は湖医会主催。一体何人集まることやら…20人位かな？と思っていたら、意外にも40人近くが参加の返事をしてくれて驚きました。

何かゲームでも企画せんといかんのだろうか？と一人考えていましたが、そこはやはり女の子の集団。すぐにワイワイガヤガヤ。近況報告から、学生時代の思い出、結婚や出産・子供の話まで、すぐに昔のように賑やかな集団に早変わり。全然変わらないノリで仕事している人も結婚・出産してすっかりお母さんになった人も、色々な話に花を咲かせていたようです。湖医会から頂いた学生時代の写真公開や、お世話になった教授からのコメント披露などもあり、会を成功裏に終えることができました。

気が付けば卒後５年。私も看護師として働き出して、あっという間に５年が経過しました。個人的に、そろそろ次のステップに向けて行動し始めようとしていた時でもあり、同じような考えの仲間もいて今回の同期会はいい刺激になりました。次回の同期会はまた５年後。またいつもの電話がかかってくるんだろうと思いながら、それまで同級生に負けないように頑張っていこうと思います。

最後になりましたが、湖医会事務局のみなさん、当日いきなり頼んだにもかかわらず快く受付をしてくれたみなさんに感謝いたします。

卒後5年を迎えて

谷　智子

主婦として育児に追われる私は、今回の同期会に参加することを楽しみにしていました。卒後は就職、結婚、出産とめまぐるしく環境が変化しました。主婦となった今、仕事もしないでこのままでいいのかと思うことも少なからずありました。

今回同期会に参加し、この5年間会うことのなかった懐かしい顔にたくさん会うことができました。お互いの近況報告からもそれぞれが、様々な道を歩んでいることを知りました。主婦あり、海外放浪あり、キャリアを積んでいる人あり、これから留学という人もいます。社会にでてから5年、それなりに悩みや迷いがあったと思いますが、みんないきいきとしているように感じました。学生のときにはなかった、社会人としての自信も伝わってきました。今の自分の生き方に迷いがあった私もみんなの話を聞くにつれ、私は私でいいんだと肯定してもらったような気がし、参加してよかったと思いました。

これから5年みんながどんな道を歩んでいくのか、5年後どんな報告がきけるのか、とても楽しみです。そして私も自信をもって近況を報告できるように生きていきたいと思います。

同期会に参加して

大津赤十字病院　　富田　晴香

2007年2月、卒後5年同期会が開かれ、湖医会主催での同期会ということでたくさんのメンバーが参加しました。もちろん私もその日をワクワクした気持ちで迎えていましたが、受付をしながら、遠方からはるばる駆けつけてきた同級生の顔を眺め、他の人も同じようにこの日を心待ちにしていたのだと感じました。

みんなとても久しぶりで、5年ぶりの友人が何人もいましたが、すぐに学生の頃と変わらぬ感覚で話に花が咲きました。しかし、一人ずつ近況報告している様子からは、やはり5年という月日を感じました。大学病院で今や中堅として頑張っている人、保健師として大きな事業に取り組んでいる人、結婚して専業主婦として、また子育てをしながら家庭を守っている人、助手として学校教育に携わっている人、今も学生として勉強に励んでいる人。みな社会人として、新しい環境に馴染むことに必死で不安だった卒後１～２年の頃とは違った頼もしさがありました。

私はというと、昨年結婚して、仕事の復帰場所としては外来を選びました。まだ3交代が無理という状況ではないだけに、まだ経験も少ない自分が外来で良いかと悩んだりもしました。けれど久しぶりの友人に出会い、今の様子を迷うことなくいいじゃない、と認めてもらえた時、ほっとした思いがしました。選択肢がたくさんあるだけに迷うこともあるけれど、どんな今であってもお互いを認め合え、思いを共有できる仲間がたくさんいることを実感しました。そして、今ある環境の中でできる看護を学び、頑張っていきたいと思える一時となりました。

数年後、また一層頼もしくなったみんなに会える日を楽しみにしています。

第７回

看護学科　卒業生と在学生の

交流懇談会を終えて

この企画は「湖医会」がサポートしています・・・

看護学科生の進路の参考になればと企画された「卒業生と在校生」の貴重な『交流の場』。4回生が主体となって行ってきた交流懇談会も、今年からは3回生が主体となり行われました。

自分たちの経験が少しでも後輩達に役立てば・・・とたくさんの卒業生が参加してくれて、“看護学科の輪”が広がっています。その輪の様子を紹介します！

～先輩に続け～

地域生活看護学講座教授
畑下　博世

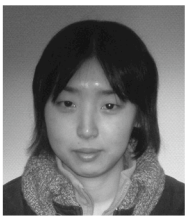
卒業生の先輩から就職活動や現場での経験を聞き、在学生の就職活動などを支援するという趣旨から恒例となっている「卒業生と在学生との交流懇談会」を今回は2月に早めて行いました。今までは6月に行っていましたが、４年生の就職活動は春から始まるために従来の時期では遅いという学生の希望を反映させたものです。交流会に参加いただいた卒業生の皆様には、週末大変お忙しいなかご協力いただき感謝いたします。終了後のアンケートからとても有意義であったことが伝わってきました。

これから看護職としてどのような現場で働くのか。既に決めている人、決めかねている人、それぞれが最終決定をしなければならない時期がそこまで来ています。先輩の経験談を参考にして３年後、１０年後どのような看護職になりたいのか将来を想定した就職活動を行うことを望んでいます。

日々進歩する保健・医療の現場に看護職を送り出す大学の使命は、看護の基本をしっかりと身につけ、大学で学んだ基礎を現場で応用できる能力を持った学生を育てることであると考えます。当日は、悩みながらもそれぞれの現場で立派に活躍されている卒業生の経験談と姿にエールをおくり、在学生は滋賀医科大学看護学科の学生であることに誇りを持ち、卒業生に続いて欲しいと願わずにはいられませんでした。

本会は「湖医会」の主催で、「学生」と「看護学科後援会」が共催して行われています。特に「湖医会」には大変お世話になり感謝いたします。この会がこれからも円滑に開催されることを希望して、学生が開催マニュアルを作成しました。来年度の学生がこれを参考にし、より有意義な会を開催されることを期待しています。

よい機会となりました原稿



立川 有佳　（看４回生）

交流懇談会では本学卒業生の先輩方との交流の機会を得ることができ、私にとってはもうすぐ最終学年を迎えるという時期なので、残りの学生生活のことや国家試験、就職についてアドバイスなどをいただくことができ、とてもよい機会となりました。その時ちょうど私は国家試験の勉強法、勉強量がわからず不安でした。時期的にもそろそろ覚悟しないと、と身構えていました。しかし先輩方によると、「過去問を反復すればなんとかなる、時期が迫れば勉強はする、だから今学生のうちにしかできないことを思う存分やった方がいい。」ということでした。やはり専門職に就くということは資格を盾にするわけで、国家試験は当然乗り越えなければならない山だと自覚したと同時に、これからやるべきことがわかって内心ほっとしました。また、先輩方にも学生時代には様々な思いがあったことを知り、今の自分自身と重なり共感できることがありました。思えば大学に入学した頃、様々なものに憧れましたが、その裏返しの劣等感や反発も抱きながら３年間を過ごしてきました。その中で根付き、テーマとなったことは、今の自分を支え、拠り所となっている気がします。それが大学生活を終えた時、自分の誇りに足る強みとなるように、残りの学生生活を充実させたい、そのような感情が沸いてきました。私だけでなく、皆さん個々に感じることがあったと思います。そのような意味でも、今回の交流懇談会は非常に有意義であったと思います。

今回お忙しい中ご参加いただいた先輩方には、この場をお借りし、お礼を申しあげたいと思います。ありがとうございました。

学生から社会人へなること

北谷聡史　（看４回生）

交流会がどのようなものか分からず諸先輩方や、先生方、また関係者の方々には多大なご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

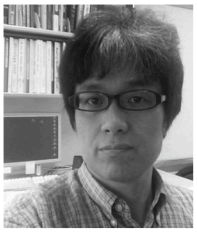
今回交流会を企画進行する一人として参加させていただきましたが、想像以上に驚いたことは、何年も既に働いておられる先輩方は、もちろんのこと、失礼な言い方かもしれませんがナース一年目の方々がとてもしっかりされていて精神的に強くなられているのに驚きました。去年学生生活をともにしていた時とは格段の変化に、この一年近くをいかに充実し濃い時間を過ごされたのかをうかがい知ることが出来ました。また、ナースの一年目というのが先輩方の話にあったように夏までは非常にストレスフルな状態で、逆に、非常に成長できる期間であるということを知りました。私は個人的な理由で、大体の新人ナースよりも年は上ですが、話を聞いていて、社会人と学生との内面の差をまざまざと見せ付けられた気がし、また一刻も早く一社会人として活躍したい気持ちになり、とても為になりました。

先生が「就職は、待っているだけでは何も始まらない、自分から動かなければ。」とおっしゃっていましたが、実際にはどのように動いていけばよいのか大局も内情も分からず途方にくれていましたが、今回の交流会ではある程度先輩方も折に触れては就職の話をしてくださったし、何よりも良かったのは後半の茶話会で、本音でざっくばらんに今更のようなことも聞けてとても良い機会であったと思います。

この交流会という社会人への道標をこれからも毎年続け、後の後輩たちが参考に出来るようずっと続けて行っていただきたいと感じました。

准教授紹介

相見良成（医5期生）　滋賀医科大学解剖学講座　准教授



1985年3月：滋賀医科大学医学部卒業
1985年6月：滋賀医科大学外科学第2講座　研修医
1987年4月：滋賀医科大学大学院入学
1991年3月：同上修了（医学博士）
1991年5月：滋賀医科大学分子神経生物学研究センター　助手
（この間）1992年6月から1995年5月：
カナダ・ブリティッシュコロンビア大学留学
1999年4月：滋賀医科大学分子神経科学研究センター　助手
（センター改組による）
2001年4月：滋賀医科大学分子神経科学研究センター　講師（学内）
2005年4月：滋賀医科大学解剖学講座　講師（学内）
2007年4月：滋賀医科大学解剖学講座　准教授

2007年4月1日付けで、滋賀医大解剖学講座の准教授を拝命いたしました。「世界一の外科医」を目指して臨床研修を始めたのですが、どういう訳だか大学院入学を機に基礎医学の世界に迷い込んでしまい、そうこうするうちに今回の職務を命ぜられました。2年前に解剖学講座に移籍して以来、本格的に解剖教育に携わってみて、改めて最近の医学教育における「学習内容の膨大さ」とそれに対する「講義・実習時間の少なさ」に驚いています。「解剖の先生」になった以上は、出来るだけ効率的に「解剖学」を学んでもらい、またその中で、学問としての「解剖学」のオモシロさに触れてもらおうと日々、鈍い頭をひねっています。学内に残っている卒業生の一人として、少しでも湖医会のお役に立てればと思っています。

定松美幸（医7期生）　奈良県立医科大学精神科　准教授

1987年3月：滋賀医科大学医学部卒業
1987年4月：滋賀医科大学精神科　研修医
1989年4月：県下一般病院
1995年4月：滋賀医科大学　助手
（この間）1999年から2000年：文部省在外研究員
2000年4月：聖路加国際病院、東大保健センター
2003年4月：滋賀医科大学　講師
2007年4月：奈良県立医科大学精神科　准教授

2007年4月1日付けで奈良県立医科大学に赴任いたしました。私は1987年卒業の7期生の定松美幸と申します。奈良医大は橿原神宮近く、大和三山を望む実にのどかな風景の中にあります。2005年に創立60周年を迎え、本院に続いて精神科は昨年11月に新病棟がオープン、閉鎖、開放あわせて110床です。PICUも設置され今月からいよいよ精神科スーパー救急がスタートし、大勢の医局員が病棟外来を走り回っています。私が個人的に興味を持っている児童思春期外来も歴史があり、これまでやってきた研究を臨床とどのように関連付けて進めていこうかと毎日わくわく過ごしています。今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

★住所・勤務先・肩書き等に変更がありましたら事務局にご一報ください

ご案内　第9回　関東支部会のご案内

1、日時：8月18日（土）　午後6時30分
2、開場：品川プリンスホテル「品川大飯店」
tel　03-3440-1111
3、講演：早稲田大学スポーツ科学部教授　内田直氏（医3期生）
演題「早稲田スポーツとトップアスリートの時間生物的研究」
終了後懇親会
4、研修医・看護学科卒業生・学生は無料

訃報

白石里支さん（医18期生）を偲んで
（旧姓 鈴木）
塩谷明子（医18期生）

2007年4月27日、34歳の若さで彼女は天国に召されました。虫垂癌でした。
なぜか誤解されがちな彼女は、非常に真面目で努力家で面倒見が良く、ムードメーカーでした。よく笑い、よく泣く、感情豊かな人でもありました。そんな彼女と一緒にいたからこそ知り合えた人がたくさんいました。その人々に私自身が大学院時代にお世話になって、彼女が結びつけた不思議な縁をしみじみと感じました。
彼女は卒後、愛知県に戻り放射線科医として勤務。結婚をして、1児の母となりました。
昨年、大学院での研究が一区切りつき、再び臨床現場で活躍し始めた矢先の、突然の病魔の訪れでした。昨年11月に最後に会った時は、学生時代と変わらぬ彼女に母親としての優しいまなざしが加わっていて驚かされました。
あまりにも突然の訃報で、今でも彼女に連絡すれば返事が戻ってくるような気がします。
なお、彼女のために何かしてあげたいとお考えの方がいらっしゃいましたら、塩谷までご連絡ください。
shioyan@belle.shiga-med.ac.jp

27期生（Sさん）からうれしい便りが届きました!!

「湖医会」事務局の皆さんへ

学生の間は、本当にお世話になりました。体育会や学園祭など「湖医会」の皆様のお陰で、とても充実したものになりました。個人的には、奨学金のお陰で6回生までクラブを続け、勉学にも励むことができました。
本当に充実した学生生活を送ることができました。自信を持って、胸を張って「滋賀医大生でよかった！」と言うことができます。たくさんの思い出をつくることができました。「藤原よしみ奨学金」をご寄附下さいましたご両親様に大変感謝していることをお伝えください。本当にありがとうございました。
4月9日からは内科研修がスタートします。20人ほどの入院患者様の主治医となります。学生時代の思い出を胸に身を引き締めて患者様と接していきたいです。

湖医会奨学金ご寄付

ありがとうございました。
厚くお礼申し上げます。

医学科５期生有志／医学科15期生有志

同期会の余剰金の一部を
寄付していただきました。

＊「湖医会」事務局の備品等の購入に
充当させていただきました

ご協賛ありがとうございます
杏林製薬株式会社　／　扶桑薬品工業株式会社　／　アルフレッサファーム株式会社　（順不同）